

東山・まち・みらい塾

第7期 活動記録

H20.5～H21.3



目 次

1	はじめに	1
2	第7期の進め方	2
3	第7期の活動経過	3
4	第7期の自主企画～地域の活性化を目指して～	6
5	塾生の皆さんの感想	9

1 はじめに

(1) 塾の設立趣旨

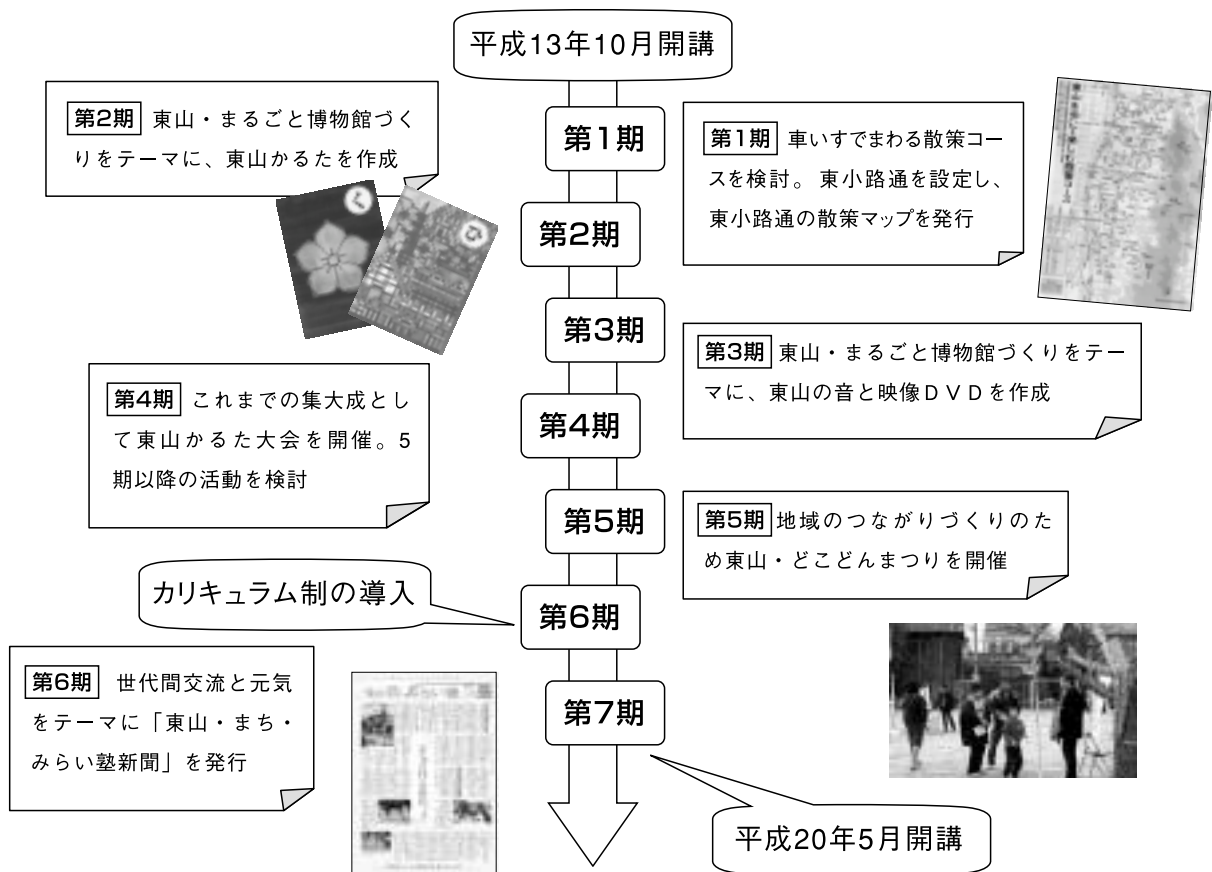
東山区では、平成13年1月に「東山・まち・みらい計画2010」を策定し、東山区の将来像を「伝統・創造・文化 ～やすらぎとふれあいのまち・東山」と定め、「安心」「魅力」「交流」の3つをキーワードに個性豊かなまちづくりを進めているところです。

「東山・まち・みらい計画2010」に掲げる施策・事業の実現のためには、区民の皆さんと行政とのこれまで以上に強いパートナーシップが不可欠です。区民の皆さんが自分たちのまちについて、よく知り、考え、地域の情報を共有し、区民主体のまちづくりを進める。そして、区民の皆さんにとって一番身近な行政機関である区役所がこれをきめ細かく支援する。こうしたパートナーシップがあってはじめて、この「東山・まち・みらい計画」は実現されます。

そこで、同計画を着実に推進するために区民と行政とのパートナーシップを一層発展させながら、共に学び合う場、また計画を具体化する場として「東山・まち・みらい塾」を開設することになりました。同塾では、東山区の現状や課題、魅力等についての認識を深めるとともに、まちづくりの担い手や地域でのまちづくりのリーダーづくりを目指します。

(2) これまでの塾活動

平成13年10月に第1期の塾が開講して以来、各期において、東山に対して何ができるか議論され、活動してきました。その塾活動も昨年5月で第7期を迎えました。



2 第7期の進め方

(1) カリキュラムの継続

第7期は第6期で初めて導入したカリキュラム制を継続することとしました。修了生企画への参加、NPOや地域組織の活動を学ぶ講義など、まちづくり活動のイメージをより具体的に持ってもらえるようなカリキュラムを構成しました。具体的なイメージを持つことで、塾生自らの自主企画、修了後の姿を意識しながら学習できる仕組みを作りました。

(2) カリキュラムの柱

ア 東山区の現状、取組を知る

各種統計書や資料等から東山区の現状（魅力・課題）を知る。また、東山区ではどのようなまちづくりの取組が行われているのかを知る。

イ 塾修了生、大学、地域から学ぶ

さまざまなまちづくりの主体の方からお話を聞き、また、その活動に参加するなどして、その取組を知り、自らの企画、修了後の姿を意識しながら学習を進めていく。

ウ 塾生企画

東山区の現状、まちづくりの事例を知ったうえで、自分達で何ができるのか考え、自ら企画を実践する。

【地域活動（修了生組織）】

塾の修了生組織「まち・みらい東山」の活動に参加し、まちづくり活動を体験することで、修了後の自らの姿を具体的に意識する。

【地域活動（地縁組織、志縁組織）】

地縁組織、志縁組織として、地域役員やNPOの方からお話をいただき、地域活動を身近に意識する。

【大学地域連携】

東山区内にある大学がどのような地域との関わりを持っているかを知る。

【地域と行政の共働の取組】

地域と行政の共働の取組に参加し、まちづくりにおける行政の役割、地域の役割について学ぶ。

3 第7期の活動経過

開講式 (5月29日)



東山・まち・みらい塾の設立趣旨からこれまでの活動、年間のカリキュラムの説明を行いました。

その後、自己紹介を兼ねて連想ゲームをしながら塾生同士の交流を深めました。

第2回 定例会 (6月26日)

講座1

【東山区の現状、取組を学ぶ】

さまざまな統計情報等から浮かび上がってくる東山区の現状や課題、東山のまちづくりについて学習しました。その後ワークショップを行い、「空き家」「女性」等に関心事があることがわかりました。



第3回 定例会 (7月28日)

講座2【地縁組織・志縁組織を知ろう】



地縁組織として六原自治連合会事務局長の菅谷幸弘さんから地域活動へ参加するようになった経緯、志縁組織としてNPO法人「音の風」代表の西野桂子さんから「音の風」を発足した経緯とその後の活動等についてお話いただきました。

〈やすらぎ・ふれあい館で開催〉

第4回 定例会 (8月3日)

体験学習1【修了生から学ぼう】



塾の修了生組織「まち・みらい東山」による企画「水と緑を求めて」をテーマにしたまちあるきに参加しました。光明院、五社の瀧、今熊野観音寺等を巡り、修了生の案内により、音無川の源流を辿りました。

第5回 定例会(10月14日)

講座3【大学連携を考えよう】



区内の大学の統計、地域の大学連携への期待、京都女子大学と区役所とが地域連携協定を結んだ経緯について学習しました。また京都女子大学の姑射博章さんから、協定後の地域連携の事例、今後の展望等についてお話いただきました。

第6回 定例会(11月20日)

講座4【区の事業を学ぼう】

行政と地域の方との協働の取組として代表的な事業、東山区交通対策の概要について学びました。



フリータイムの時間では、今後の自主企画について具体的な案の意見交換をしました。

第7回 定例会(11月23日)

体験学習2

【観光案内ボランティアに参加】



東山交通対策の一つである観光案内ボランティアに参加しました。実際に交通状況や観光客の様子等を観察しながら、道案内等に取り組み、地域の方との協働で実施されている交通対策の意義について考えました。

第8回 定例会(12月10日)

塾生自主企画1

【出来ることを考えよう】

具体的に考えてきた塾生の自主企画について塾生それぞれから発表されました。空き家、空き店舗を利用した催し、商店街マップの作成等の意見が出ました。

話し合いの結果、それぞれの企画の中心には「地域の活性化」がテーマにあることがわかり、その手法として商店街を取り上げることに決定しました。

第9回 定例会(1月6日)



事前に行った区内の商店街回りの報告が行われました。今熊野・古川町商店街が商店街のイメージに近いこと、地域の活性化を考えるうえで、今熊野商店街がふさわしいことを共有しました。そこで、まず商店街の実態を知るため、ヒアリング調査を行うことを決定しました。

第10回 定例会(1月20日) 塾生自主企画2【企画を進めよう】

市の商業政策の現状を把握するため、京都市商業振興課の西村義治さんにお話しをいただきました。商店街と大学との連携事例、商店街活性化のためのさまざまな取組事例について学びました。



○利用者ヒアリング調査(2月14日)

商店街の活性化を通して地域の活性化に取り組むことが決まり、今熊野商店街振興組合の協力を得て利用者・学生・商店街店主へのヒアリング・アンケート調査を実施しました。調査当日は商店街主催のイベント「ワッハ笑店街」が開催されていました。

○自主活動(数回)

2~3月にかけて複数回の自主活動を行い、パンフレットの作成に取り掛かりました。



○商店街への報告(3月17日)

調査にご協力いただいた今熊野商店街振興組合の理事会で、途中経過を報告し、意見をいただきました。



報告会・修了式 (3月27日)

完成したパンフレットをもとに、塾の修了生や指導いただいた方に報告を行いました。

続いて修了式を行い、第7期東山・まち・みらい塾の修了を迎えました。



4 第7期の自主企画 ～地域の活性化を目指して～

第7期の自主企画は商店街の活性化から地域の活性化を目指して、約4ヶ月かけて「商店街はまちの“^{つどりぼ}集り場”」パンフレットを作成しました。

(1) パンフレットの概要



作成：東山・まち・みらい塾 第7期生
協力：今熊野商店街振興組合
発行日：平成21年3月
ページ数：21ページ

(2) パンフレットの構成

■前段（P1～5）

取組のきっかけから始まり、今熊野商店街のまちなみの様子、周辺環境、商店街位置図等を掲載しています。

■アンケート集計結果・分析（P6～18）

利用者ヒアリング、大学生アンケート、商店街店主アンケートの集計結果から、現状と課題の分析を掲載しています。学生から高齢者まで幅広い世代、商店街を利用していない方の意見を集めることで、さまざまな角度から検証できるよう工夫しました。それぞれの回答者が、商店街に対して何を求めているのか、何が利用しない原因となっているのか等を分析しています。

■地域の活性化に向けた対策・提言（P19～21）

分析から見てきた課題に対して、地域の活性化に向けた対策・提言を、今熊野商店街における“^{つどりぼ}集り場”づくりのアイデア・方策としてまとめました。

① 空き店舗の利用

⇒日常の買い物場所としてだけでなく、手芸教室や寄り合いの場を設けることで、人が集りやすい環境をつくる。また、駐輪場への転用をすることで、若い年齢層を獲得する。

② 高齢者向けのサービス

⇒利用者で一番多い層である高齢者に絞ったサービスの提供をする。

③ 歩行者の安全確保

⇒商店街の中を安全にすることで、高齢者だけでなく、子連れの利用客を増やすきっかけとする。

④ 学生（若者）への情報提供の充実

⇒チラシを学生が手に入れやすい場所へ配布する。また、学生が利用する頻度の高いホームページの存在をアピールする。

⑤ 学生（若者）と商店街を結びつける活動

⇒大学と共同でイベントの実施や、ディスプレイを手掛けることで、学生が集れるきっかけをつくる。

“^{つどりば}集り場”とは？

“^{つどりば}集り場”とは商店街が単なる「買い物場所」としてだけでなく、「人が集い、しゃべり、交わり、暖まり、心踊り、彩あふれる 場所」として成長することで、地域の活性化の拠点となると考え名付けられました。

このパンフレットは、商店街関係者だけでなく、地域の方や学生などたくさんの方に読んでいただきたいと思います。

<パンフレットアドレス>

<http://www.city.kyoto.lg.jp/higasiyama/page/0000060979.html>

(3) 今熊野商店街振興組合 田中理事長からのコメント

今熊野商店街においては、後継者問題等による店舗数の減少が続いています。そのような状況から、今回東山・まち・みらい塾と協力体制で商店街の実態調査をさせていただきました。調査結果から、商店街を改めて考えるきっかけとし、新たなステップになればと考えています。

ヒアリング調査当日に開催したイベント「ワッハ笑店街」にはたくさんの方が来られ、商店街は人が集まる場所だということを改めて実感することが出来ました。地域の活性化の原動力として、地域の方の期待の声を感じています。今後は、利用される方に、商店街に定着してもらう為にも、高齢化、坂道、大学等、地域の特性を踏まえ、いろいろな方の意見を取り入れて考えていきたいと思っています。

(3) 市民しんぶん東山区版「こちら東山」平成21年4月15日号

第7期東山・まち・みらい塾 つどいは
「商店街の活性化から地域
の活性化へ結びつけたい」そ
 んな嵐から第7期東山・ま
 ち・みらい塾の塾生が自ら作
 成したパンフレットが完成し
 ました。

○内容
 今熊野商店街を対象とした
 ヒアリング・アンケートの集
 計結果、結果から思えてくる
 現状・課題を分析した塾生の
 提言などを掲載。

○第7期塾生から！
 私たちは、商店街が単なる
 「買い物場所」としてだけで
 なく、「人が集い、しゃべり、
 交わり、心が暖まる場所」と
 考え、集り場と名付けまし
 た。商店街が「集り場」とな
 ることで地域の活性化につな
 がるのではないのでしょうか。

東山区役所まちづくり推進
 課窓口などで配布、区役所ホ
 ームページからもご覧になれ
 ますので、ぜひご覧下さい。
 問合せ 事務局：区役所まち
 づくり推進課（551・0111
 4）



塾長（荒木東山区長）と
 第7期塾生

「商店街活性化だけでなく、
 地域の方や学生などたくさん
 の方に読んでいただきたいと
 思います。」

(4) 京都新聞（平成21年4月23日付朝刊）

京都市東山区のまち
 づくり講座の受講生た
 ちがこのほど、同区の
 今熊野商店街でアン
 ケート調査などを行
 い、商店街を人が集ま
 る交流の場として活
 性化させるための提言を
 冊子にまとめた。空き
 店舗で学生も交えた趣
 味の講座を開くなどの
 アイデアを示し、「商
 店街の新たな可能性を
 探るヒントにしてくら
 えたら」と期待してい
 る。

東山のまちづくり講座受講生

**商店街活性化
 提言を冊子に**

「東山・まち・みらい
 塾」の第七期に参加した
 京都女子大（東山区）の
 学生や区役所職員ら五人

**客や地元学生にアンケート
 空き店舗活用が課題**

が、商店街を「まちが元
 気になる若男女の交流
 拠点」ととらえて企画し
 た。

二月に商店街を訪れた
 住民約五十人へのアン
 ケートで、商店主と京都

女子大の学生への聞き
 取り調査に取り組んだ。
 徒歩で来る人が多い一
 方、学生は自転車で行
 きにくい点を不便に思
 っていたり、店主は空き
 店舗の空き、若者向けの
 店の少なさなどを課題
 として挙げていた。提言
 は「商店街はまち
 の美り場」とし、調査
 結果をグラフなどにし
 てまとめた。

冊子は「商店街はまち
 の美り場」とし、調査
 結果をグラフなどにし
 てまとめた。

店だけでなく、誰もが遊べる
 交流場所や駐輪場、学生
 サークルのイベント会場
 などとして「宮に人を集
 める」ことでにぎわいを
 と提言している。

A4判、二十一ページで千
 四百部作り、希望者に無
 料で配布。東山区まちづ
 くり推進課075（5
 51）0111。

（高元朝典）



商店街の活性化に向けて作った冊子の完成を
 喜ぶ受講生たち（京都市東山区役所）

5 塾生の皆さんの感想

花澤 亜友子

私が東山・まち・みらい塾に参加したのは、東山区のまちづくりについて学んでみたいと考えたからです。大学でまちづくりについて学びましたが、実際に自分の住んでいる地域の知識は少なく、東山区が抱えている問題、そのために行っていることを具体的に学んでいくことができるのではないかと考え参加しました。

前半は東山区をさまざまな方向からみることができました。特に東山区のまちづくりに関わっている方々のお話を伺うことは興味深く、まちづくりとして多くの活動が行われていることを知りました。塾生企画では、ヒアリング調査で地域の方と触れ合うことができ、多くの方が商店街に愛着を持っていらっしゃることを実感しました。報告会では、商店街の方々が真剣に耳を傾けてくださり、自分たちの活動が少しでも役立っていただけたらといううれしい気持ちになりました。

また、今まで関わりがなかった方々と、塾生として同じ目的に向かって活動することで、自分の視野が広がりました。意見を出し合い進めていくことで、自分一人ではできないことが、実現できたと思います。

今までまちづくり活動に参加することを大きく捉えすぎていましたが、今回参加してみて、まず興味を持つことの大切さを実感しました。事務局側の対応で、東山区のまちづくりと向き合うことができた一年でした。このような機会をいただくことができたことをとても感謝しています。今後も地域住民に愛される東山区であり続けてほしいと願いつつ、自分も何らかの形で東山区と関わっていくことができたらと考えています。

高森 美穂

私が、「東山・まち・みらい塾」を知ったきっかけは、大学のゼミでした。もともと大学で、まちづくりについて学びたいと思っていたので、塾はぴったりだと感じました。塾の見学に行ったとき、思っていたより塾生の人数が少ないことに驚きましたが、塾生の方たちがとても楽しく学習をしているように見えました。また、気楽に発言しやすい場所でもあるようで、一緒にまちづくりについて学びたいと思えました。

塾生は自分より年齢がかなり上の人が多く、自分が考えている以上の考えを聞くことができ、自分にはもっていなかった意見の発見に驚くことばかりでした。塾の前半では塾生の人たちの意見を積極的に聞いていくようにして、自分の意見を深めていくようにしようと考えてるようにしていました。

塾の後半になり、7期のテーマを決めて「商店街からのまちづくり」について調

査することになりましたが、塾生の方たちに教えていただくことばかりだったと思います。調査結果のパンフレットを作ることにあたって、自分たちが行おうとしている一つ一つの事柄について何のためにそのようなことを行うのかといったこと等を、明確にしなければならないということを初めて知りました。また、自分たちでやりたいと思っても、その活動内容を見る人は不特定多数であり、その人たちみんなが納得するものを作らなければならないということがわかりました。

1年間、まちづくりについて学んでみて思ったことは、まちづくりをする時にはまずはそのまちについてきちんと知っておく必要があります、またそこから、まちにある問題を解決する方法が見えてくるのではないのでしょうか。

田中 理世

第7期の塾では、交通事情、少子・高齢化、空き家の問題など、東山区でとりあげられるさまざまな課題のうち、地域活性化の拠点である商店街の活性化をメインテーマとして取り上げました。

はじめは月一回ペース、講義形式ということもあり、正直に言えばかなり手探りで始まりました。しかし、回を重ねていくと、区の活性化についてさまざまな意見が出たように思います。私自身は社会人としての参加でしたが、塾に学生さんがおられたことがテーマの決定や調査方法に大きく影響を与えたと感じています。東山区は女性区民が多い区であり、「女性パワーを生かすことが区の活性化につながる」という意見が塾生の中からも出ましたが、塾に参加された京都女子大学の学生さんに馴染みのある「今熊野商店街」を調査し、そこから地域活性化に向けた提言を出すことができたことは、まさに、まちづくりに「女性パワーを生かす第一歩」だったのではと、振り返って思います。

今熊野商店街振興組合の理事会に提言を持って出席し、理事の皆様から「耳が痛いのが的を得ている」「この中で実現したいものがある」等うれしいご意見をお聞きすることができ、今期の塾の活動をきっかけに、まずは今熊野商店街が、そして、この地域の活性化の動きが盛り上がっていくことを願います。

また、提言を仕上げるにあたり、今熊野商店街振興組合の皆様並びに東山区役所まちづくり推進課の皆様にご多大なるご協力・ご尽力をいただきました。この場を借りてあらためて御礼申し上げます。

金野 大

東山・まち・みらい塾に参加し、一年間を通して東山地域の魅力や課題について学んできました。塾に参加する以前、東山は観光名所が多く、毎年たくさんの方が訪れる賑わいのある場所と認識していました。しかし、塾の活動を通じて、この認識が地域の外からの目線に偏っていたことに気づきました。地縁組織や志縁組織、NPOの一員として実際に東山地域で活躍されている方の講義を受け、またその活動を実際に見ることで、地域の内側から見た東山の姿を知ることができました。

地域の内側から見る東山には、観光で賑わう華やかな面と裏表のように、住民の方にとって身近で切実な生活課題がありました。観光シーズンの交通混雑や、空き家や商店街の空き店舗の増加、森林の植生変化など、多様で複雑な課題が混在しているという印象を持ちました。これらの課題に関する講義を受け、いずれの課題も東山地域の活気に関わるという点は共通しており、困難でも解決していく必要があると感じました。

さまざまな地域課題が見えてきた中で、私たち第7期の塾では地域の拠点のひとつである「商店街」に注目し、空き店舗の問題等を持つ商店街についての住民意識調査を実施し、その結果をまとめるという企画に取り組みました。この結果を商店街の方に報告させていただいた際、理事の方々からは、「提案するだけでなく、実際に動いてみなければならない」という意見が出されました。どの方も真剣に商店街の将来について考えており、自分たちが動かなければならないということも強く感じておられることが分かりました。理事の皆さんが本気になって考え、動こうとしている姿を見て、まちづくりの主役は住民の方だということを学んだように思います。

塾の活動をきっかけに、地域に飛び込んでいくおもしろさや大変さの一端を知ることが出来ました。今後も感心を持ち続け、何らかの形で住民の皆さんと一緒に、具体的な活動に取り組んでみたいと考えています。

第7期のメンバー（50音順、敬称略）

塾生（5人）	花澤亜友子（京都女子大学4回生）、岸本裕香（京都女子大学3回生）、高森美穂（京都女子大学1回生）、田中理世（東山区役所 保険年金課勤務）、金野大（東山区役所 納税課勤務）
アドバイザー	佐藤友一
事務局	東山区役所まちづくり推進課 馬屋原宏、安田知子、伊東直樹

塾長（東山区長）ごあいさつ

第7期東山・まち・みらい塾は、1年を通して、東山区の現況を知り、塾の修了生、大学、地縁組織、志縁組織等、さまざまなまちづくりの主体の活動について学びました。また、自主企画では、ヒアリング調査やその集計・分析等、大変熱心に取り組み、パンフレットを完成させました。このパンフレットを、少しでも多くの方に読んでいただき、商店街が活性化され、地域の活性化につながればと願っています。

「東山・まち・みらい塾」は、平成13年に開講し、7年間でたくさんの方が塾を修了されました。修了生の中にはNPOの代表や、自治連合会の役員等で活躍されている方、修了生組織「まち・みらい東山」で活躍されている方等、たくさんいらっしゃいます。第7期塾生はこれからその修了生の一員となって、1年間の学習の成果を踏まえ、まちづくりの中核となり、一層活躍していただくことを期待しています。

東山区役所では、今後とも区民の皆さんと行政との信頼関係に基づくパートナーシップを一層大切にしながら、ますます魅力的な東山区となるよう、全力を挙げて取り組んでまいります。

区民の皆さんの一層のご支援とご協力をよろしくお願い致します。

東山区長（第7期 東山・まち・みらい塾塾長）
荒木 陽子

事務局後記

今期の塾は少人数でありながら、それぞれの塾生に熱意があり、まちづくりに対して高い関心があったように感じられました。また、学生が多く年齢層も若いため、新しい視点でまちづくりについて考えられる塾だったと思います。前半では、さまざまなまちづくり活動をされている主体の方から、具体的な地域活動について学んでいくというもので、お話しを伺ったり、実際に体験することは、まだ若い塾生の皆さんには貴重な経験となったのではないかと思います。

また塾生自らの企画では、少人数であることから、出来ることある程度制限されていました。その中で、塾生たちは東山区において、何が必要とされ、自分たちでどのようなことが出来るのかを考え、パンフレットの発行という結果に至りました。

それぞれが役割分担し、アンケートの集計やその分析を持ち寄り、話し合いを重ね、パンフレットを完成させました。パンフレットの発行がこの第7期東山・まち・みらい塾の本当の成果ではなく、その作成過程において得られた経験や人とのつながりが成果であると思います。修了された皆さんには地域生活や職場、さまざまな場所でこの経験を活かし活動されていくことを願っています。

塾生の皆さん、1年間お疲れ様でした。そしてこの塾の取組にご支援、ご協力をいただきました関係者の皆さん、本当にありがとうございました。

東山・まち・みらい塾

H21.7

<連絡先>

東山・まち・みらい塾 事務局
京都市東山区役所まちづくり推進課
〒605-8511 京都市東山区清水5丁目130-6
電話：561-9114 FAX：541-7755